

月刊「神戸っ子」昭和39年 1月10日印刷通巻34号 昭和39年 1月10日発行 毎月1回10日発行

郷土を愛する人々の雑誌

神戸っ子



RENZO

新年号

monthly magazine kobekko january 1964 no, 34



Hino

高性能の日野

兵庫日野ディーゼル株式会社

TEL ④ 7651


コンテッサ・ルノーのご用命は
神戸日野モーターへ

TEL ④ 5771~5



神戸店—三宮・神戸国際会館 Tel.22-0062

大阪店—堂島・新大ビル Tel.361-0220

 **御木本真珠店** 本店—東京銀座四丁目

ミキモトパールは優雅な宝石です



神戸と女性

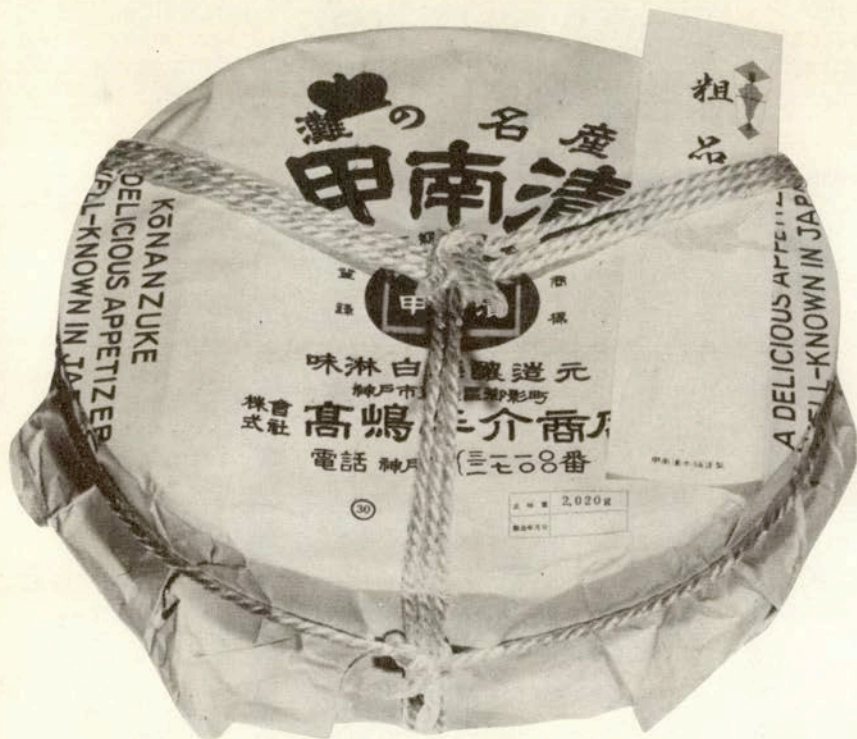
勝陽子（宝塚歌劇団雪組）藤井観誦会舞台にて

松羽目の舞台に、かざす扇も美しく、舞初めの姿もいちだんと優雅です。勝陽子さんは親和学園出身の生粋の神戸っ子。今年宝塚でも唄に踊りに又芝居にと活躍を期待されている娘役のホープ。舞台の暇に、六甲、摩耶山と緑を求めて山を歩くのが好きだといふ、はつらつとした神戸っ子です。



賀正

灘で生れた本場の香り



直 売 所

大阪・阪神百貨店甘辛のれん街・アベノ近鉄百貨店地階・大
阪駅地下兵庫県物産店・大阪三越
神戸・大丸・三越・そごう・国鉄三宮駅弘済会名品街・灘神
戸生活協同組合各支部
姫路・山陽百貨店・やまとやしき

灘の名産
甲南漬

味淋白菱本舗

株式
会社

高嶋平介商店

神戸市東灘区御影町東明電 ㊞ 2700・3110



緒方玲子 (ミス神戸) 写真左
佐々木美南子 (準ミス神戸) 写真右
— 生田神社にて —

新年の幸をと初詣の神戸のお嬢さん。ミス神戸緒方玲子さん (山手短大一年) はギターをつま弾き北野町の異国情緒に魅かれるという神戸育ち。準ミス神戸佐々木美南子さん (松蔭短大一年) は趣味は油絵。英会話勉強の必要をつくづく感じますというお二人は一度は商社のBGとして働いてみたいという近代的なお嬢さんです。

日本の〈テン〉世界のオートラジオ



かるい〈選局〉 美しい〈音質〉

指先でかるく選局してください。たちまち、やわらかなリズムが車内をつつみます。〈テン〉ならではの音質——神経のつかれをいやします。高速運転中もラクに操作できるブッシュボタン式。どんな高級車にもピッタリの、すばらしいデザインです。世界のオートラジオ〈テン〉を、あなたのお車にゼヒ!

● 美しい音質

ゆたかな音量とやわらかな音質。高性能のパワートランジスタとHi-Fi設計で音の美しさは抜群● 鋭い感度

ビルの谷間でも、遠く離れた山間でも感度を落さない強力AVC回路方式の採用、感度は最高● 強いメカニズム

振動やショックに強い設計、オイルプリント配線で、凸凹道でも平気です。ピクともしません

【AR-701型】

■一式現金正価……一八、二〇〇円

■本体……一六、〇〇〇円

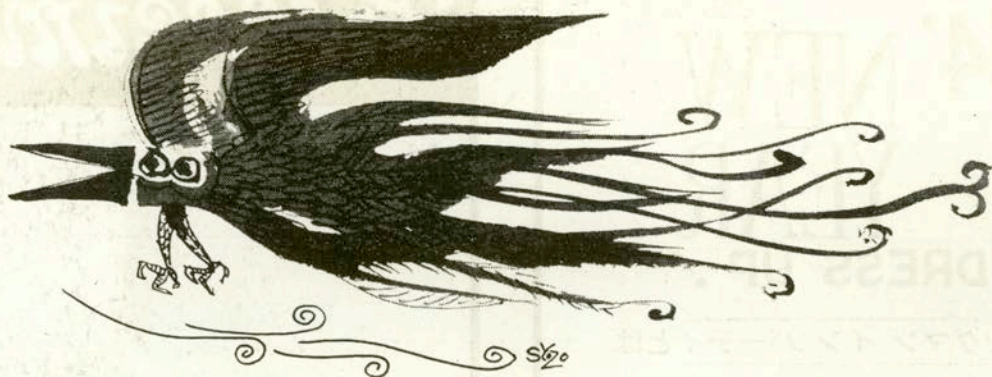
■標準ロックアンテナ(AK-111)……一、〇〇〇円

■取付金具……七〇〇円

テン

オートラジオ

神戸工業



新年号目次

- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| SECOND COVER/絵・中西 勝 1 | 37 季節のモード/福富芳美 |
| □グラビヤ/神戸と女性・勝 陽子 3 | 43 暮しのアクセサリ⑩/矢野坦 |
| 緒方玲子・佐々木美南子 5 | 46 新春座談会/詩・花・絵と音楽と |
| *わたしの意見/田中寛次 9 | 竹中郁・小原豊雲・吉原治良・市来崎のり子 |
| 新春随想/及川英雄・星空ひかる 10 | 51 ピンクコーナー (T) |
| 小松益喜・花柳芳恵子・四方田耕造・古林喜楽 | 54 神戸遊戯誌5/ゴルフ⑤・青木重雄 |
| 連載随想第十七回/わが家の庭の住人・白川渥 15 | 58 神戸うまいもん巡礼 No. 17/赤尾兜子 |
| れんさい随想⑩/神戸のこと手当り次第・淀川長治 17 | 60 紳士入門⑩/竹田洋太郎 |
| 連載随想第6回/ガラスの思い出・阪本勝 19 | 62 ポケットジャーナル |
| 新春放談/砂野仁・石野成明 23 | 70 連載第9回/神戸夫人・武田繁太郎 |
| 経済ポケットジャーナル 27 | 73 神戸の催物ごあんない |
| 連載第11回/神戸とエトランゼ 29 | 74 神戸っ子ごあんない・後記 |
| ゆたかな山荘の住人・陳 舜臣 | 76 □グラビヤ/鷗とカロニア |
| 香港情報/香港のお正月・小川丑郎 35 | カメラ・緒方しげを |

表紙・小磯良平/カメラ・米田昌弘・米田定蔵/デザイン・橋正三

64' NEW YEAR DRESS UP!

ヤングマン イン パーティとは

かた苦しいタキシードで
正装するフォーマルな
いでたちより
アイビーカインターのスーツに
ちょっとした
アイデアでアクセサリを添えれば
結構、晴れの装いに
ドレッシーなムードがでます
**for the young and
the young-at-heart**
の気のきいたドレスアップです

男の服飾

 **マック**

三宮本店	神戸センター街 TEL ⑨ 0895
トアロード店	センター街西口 TEL ⑨ 0896
新開地店	新開地本通り TEL ⑤ 7688
姫路店	姫路駅アパルト TEL ② 1261

Fachrein's

ドイツ菓子

ピラミッド
ビスケット
各種ケーキ

ユ-ハイム

本店・三宮生田神社西隣
神戸そごう・神戸三越・国際名菓店

＊わたしの意見

民族精神を 盛りあげよう

田中寛次 (神戸新聞社社長)



——新春を迎えられて、年頭の所感と言ったことで、いろいろとご意見をお伺いしたいと思います——

「私がいま、いちばん主張したいことは、日本の国民に、民族的な希望と誇りを与えよと言うことなんだ。こゝとは、オリンピックの年でもあるし、ほんとにいい機会なんだ。例えば、昨年の選挙でも、公明選挙といいながらも、何か濁った空気のなかで選ばれたと言う感じがするのだ。都知事選での証紙事件などが大きな害毒を残して、将来に希望を失わせているような状態なんだよ。こんな濁った空気を一掃して、青少年が希望を抱けるような、明るい社会環境が必要だと思うよ。」

神戸新聞社としては、兵庫県と神戸市と三者で構成している、郷土振興協会を通じて、青少年野外活動協議会(OAA)で、『希望と誇り』をもった青少年活動をやっている、現在では、『根っ子の会』と並び称される集いに成長して来ているし、政府の要請もあって、神戸新聞社が中心になり全国的な運動に推進しようとしているところだし、こゝしの課題になっている。

昨年、機会があつて渡欧して、ソ連、欧州諸国を見てきたが、特に、オランダの国土開発のすさまじさは、驚ろくばかりだった。九州より狭い国のオランダが、膨大な国費を注入して、干拓による陸地造成をやっているし、10カ年計画でデルタ地帯の大開発が行われつつある。また、ユーロポート(欧州港)と言われる石油コンビナートと結んだ大港湾造成計画が、ロッテルダム市が中心になって下流地帯に着々と進められているのだが、その規模の雄大さは、『ヨーロッパの玄関口』の名にふさわしい立派なものだ。いずれにしても、こんな国家開発の力になっているのは、『世界は神によって造られたが、オランダのみはオランダ人がこれを造った』と言う国民意識の強さだネ。国土開発は我々の仕事だと言ってその進捗状況を国民が楽しみに見に行くんだよ。日本人も、もっと自覚をもって、民族精神を作興して、意欲をもり上げなければならぬ時だと思ふよ。」

□新春随想□

閑雅な春を

及川英雄

師走半ばを過ぎるころとなると毎夜一、二席、時には三席くらいおつき合いをさせられたものである。何の事はない大根役者の殿様役で、床柱に坐らされて毎晩の忘年会だが、つまらぬ慣習のある限り、ダシにならない訳にはいかぬ仕組みになっているのだ。

こんな酒のうまかろう筈はないが、年の瀬を酒で送り、明けては又、酒で迎える新春である。茶の間から書斎、二階にもと何組かの年始客で狭い我が家はごったがえすが、三ヶ日が過ぎると山妻は疲れて一日二日寝込むのが毎年の例である。人が寄りつかないような事ではどうするかと、山妻の愚痴を封じるものの、年末年始の女房の労苦は大へんなものである。

しかし、長いあいだのバシマ馬ぐらしから漸く小閑を得た昨今の静かな明け暮れ、ここは静かなり

とても言うか、この平穏息災な日常を心から感謝している。酒を絶って満五年、毎夜麒麟を三本と決めている浅酌微醺の状態で、仕事も予定どおり進むから嬉しい。

六年前に半年の病院ぐらしから師走に入って我が家に帰った時、沼先生の注意もあつたので暮から赤穂御崎の羈亭で新春を迎えた事がある。始めての酒の無い正月だった。短大に行っていた娘は、毎日海を眺めたりテレビを見て暮らす単調さに、上高地に出かけたスキー友だちを羨んだりしたが、山妻は上機嫌で、三度三度の据膳を有難がり、炬燵に背を丸めて、うとうと三ヶ日を過ごし、正月はこれに限る、来年もこうした越年をするなら自分が臍クリを出してもよいなどと言ったりしたが、さて健康となると正月早々から家も空けられず、前記の様な次第だったが、今年はどうやら山妻の思う壺の越年になりそうなのである。というのは、初孫と始めて迎える新春なのである。

新春の舞台

私達舞台人にとって、お正月も休日ありません。元旦の朝、人々がまだお屠蘇を祝っている気配の中を、初日の舞台へと出かけるのですが、やはり、家々の軒のおかざりを見たり、掃き清められた坂道を下る時、新年の希望と期待に、身のひきしまる思いがします。今年はず家歌劇も創立50周年を迎え、私も、久しぶりに新春そうそう、東京の舞台にたちます。記念公演のレパトリーは「南の哀愁」と「これぞノタカラズカ」まだ中学生の頃、春日野八千代さん、乙羽信子さんの主演する「南の哀愁」を何回となく観て、主題歌を憶えて懸命に歌っていたことなど、懐しく思い出します。

その懐しい作品のジョンの役を思いがけなく私が演じ、ナイヤを夏亜矢子さんで演じることになりました。

東京公演も、新宿コマの舞台は初めてなのでちょっと心配ですが、れど、舞台人にとって元旦早々か

(作家)

ら舞台上に立てるのは幸先がいいと嬉しく思っています。お正月は二回公演でいつもよりずっと重労働、でも美しく晴着にきかざったお客様を舞台から眺める楽しさは私達だけのものでしょう。

宝塚も、若い人だけを対象としないで、広い層にアツピールして行くことが必要でしょうが、今年も私もうんとつつこんだお芝居で勝負してみたいと思っています。

例えば「赤と黒」のジュリアン・ソレルや、「戯れに恋はすまじ」のベルディカンなどを……。又、ショーとしても深味のあるものに取りこんでみたい……と新しい年にかかる夢は果てしがありません。ミュージカルも宝塚の進む一つの方向ですけれど、そのまま外国のものをとり入れないで、宝塚的にアレンジしたものや、高木史郎先生の「東京の空の下」「虹のオルゴール工場」といった日本のミュージカルが、もつと育っていいのではないかと思います。

そして、宝塚が、若い人、だけのものでなく大人の皆さんにも、「夢」のある宝塚の舞台を楽しんでいただきたいのです。今年も、舞台に「夢」をかけて、歌に、踊りに、お芝居にベストをつくしたいと願っています。

(宝塚歌劇団星組)

元町一丁目の 両替屋

え・文 小松 益喜

元町一丁目の電停をおりたらすぐ西側にあつた。小さな両替屋だつた。裕福らしい暮しで親父さんの白い指には大きな純金の指輪が



はめられていた。きれいな肌のいわゆるもちはだの様な皮膚が、日光に当らぬためかどんよりとした白さで、異様だつた。それも東京の友人が神戸の裕泰両替店が安全だときいて、小生に案内してくれとの事で、その両替店に行ったのだった。その頃は今からざつと三十年も昔のこと故五百円の当座の小遣いとしてポンドの英貨と両替した。その頃はシベリヤ鉄道で行くか汽船で行くより方法のない時

代だつたから、船は一ヶ月半もかかる長途の大旅行、当時の流行語で言えば洋行というのだ。その頃の流行歌に越後獅子の変うたで赤毛布の歌だとかの頃だ。その歌を一くさりかくと「向うへ行ってはきられもせぬ様な洋服あつらえて得意顔」という文句ではじまっていた。そういう時代の洋行だから、彼も或は奥さんと水杯をしていたかも知れない。何しろ円相場はいいし、マルセユにつけば到着早々から引張り風といった時代の話だ、一ヶ月の生活費が三十円もあればよい頃の話。五百円の両替と言えば大金だ。二百円月給取るのは重役さんだったのだからだ。何しろ今の様にドルの時代でなくポンドの時代だつたから両替店の表には中国語(両替というのには日中共通語らしい)両替、EXCHANGEが空いている壁ガラス戸南京町の入口に二枚のカンバンまで立つという、ゴテゴテとした看板ぶりだつた。何しろ鉄道は地上を走り、至極呑気を時代だつた。電車は手動の制動式でチンチン動きまわすの時代だ。鉄道棧橋というのがあってそこに行く臨海鉄道はカランコロンとベルならして走り、汽車の通らぬ時はレールに涼み台まで出していた頃の話。思い出話をする様になつては人間

も終点だ。もう止めよう！もう止めよう！
(画家)

お正月と着物

花柳 芳恵似子

私と着物。それは「踊り」にたずさわるものにとつて、たち切ることのできないつながりがある。

なかでも絣やお召、大島紬などのシャキツとしたものが好きで、常のお稽古の時でも、勇ましい踊りの時には、惜しげもなく大島や結城を着て、細帯をキリツと、ぐめたり、やさしい踊りの時には、身体にしっとり添う輪子や一越を着る。ところが幼ないころから、人一倍汗かきの私は、いつも激しい稽古は寒中でも汗をかかない時はないので、帯まで透る汗じみをつけては母に叱られてしまう。それでも毎日の様にあれこれと着かえて気分をかえることにしている。

この二、三年前からだんだん、おつくうになつて夏はほとんどお稽古以外は洋服で過ごすようになった。学校を卒業して二、三年は服で外出しないことにしていたので、初めの内、洋服を着ているのが

何だか気恥しい気持がしたものである。

真夏に紗や麻上布を着て、ほつと涼しい風が袴や袖口にふき込んだ時のさわやかさは、着物を愛するものの幸わせを感じる。洋服だとむき出しにしているの、涼しさもさほどありがたく感じない。やはり着物は、日本の風土にあってはいるのだろうか。だから秋が来て涼風が立ち始め、チラホラ着物姿を見かける様になると、今年も春過ぎるまできものの季節が来たのだなとほつと安心感が湧く。

そしてお正月。ちいさな子供さん達の晴着姿や、学生さん達が普段着なれない着物をきて、裾や袂を気にしながら、真白い蹴出しをちらつかせて活発に歩いているのを見かけると、とても楽しい。

又、今年も額に汗の浮かむ頃まで着物をきて、四季を楽しむことにしよう。
(邦舞家)

神戸っ子の

創造力に期待

四方田 耕造

私と「暮らしの手帳」の編集長花森安治氏とは、大学では同期だし、同じ下宿で暮した仲間だ。そ

の花森が昨夏、神戸に取材に来たとき、神戸とは不思議なところだよと前置きして「神戸と言うところほど、新しいものが創められたところはない、麻雀、ゴルフにいたるゲームまで、草分けといえは神戸なんだ」と言った。

池田内閣の、いわゆる高度成長政策の泣きどころは消費者物価安定と、国際収支の改善だが、神戸市としては、中小企業の革命的近代化が今年の課題になっている。

これは、日本で最初の試みだが、まず、湊川にモデル公設市場を計画している。それと、長田の工場地区に、モデル工場アパートを建てる、これは、工場がアパートにはいるという新構想、経営の近代化、災害の予防策と、町の美化と三拍子そろったアイデア。どちらも、神戸市が64年に、まっ先に実現して行こうと言う、自慢のプランである。

それに、ことしはオリンピックがある。少なくとも、神戸にも相当外人客が来ると思うが、国際的な感覚で、気持よく外人を迎えたものだ。それには、フレンド・シップとサービス精神をいっそう昂めたいものだ。ただ、今年の貿易は競争が激化するものと思う。

国際的な神戸の貿易商品である繊維、雑貨、ケミカルなどに、い

っそう新しいデザインとよりよい商品が要求されるようになるだろうと思っている。それほど、東南アジア、韓国などの賃金の低いところでの生産が伸びて来ているのだ。

だから、一層、神戸っ子としての特色を生かした、新しい創造力で、国際競争に対決してほしい。また、神戸っ子なれば、絶対出来ると思っっている。

(神戸市経済局長)

元町デパートの構想

古林 喜楽

誇大妄想狂のそしりをうけるかは知れないけれども、私は元町全体を町ぐるみデパートにする以外に、元町の生きる道はないのではなからうかと思っっている。私の考えではいままでのように元町が、鈴蘭燈だのヤレノアーケードだなどといっていたって、とても覚束ないのではなからうか。

アメリカのシユーパー・マーケットでは、三千台の自動車が必要だといふ。食料品の買い出し一つで

さえ、ここまで変ってしまったら世の中になっっているのである。

われわれ明治の生れのものには、元ブラという言葉に郷愁を覚える。しかし、もうこうなっっては、馬車や人力車の時代ではあるまい。車の入らないような街はおちぶれるばかりである。散歩でブラつきのなら空気のきれいなところへ人は移つてしまふ。きれいな商品をいろいろ眺めながら、ブラつきたい連中は車で通つてくる。これだけの見通しをつけることができれば、ここできんこん一番、私の次のような構想を実現すべきではなからうか。

先ず元町の街幅を二倍にひろげここをパーキング・ブレイスにする。両側をすべて五階建てのビルにする。一軒一軒で区切るようなミニチツチイことはしないで、一階は一階、二階は二階、三階は三階で、元町のはしからはしへ、ビルの中を貫いてしまふ。こうして元町全体を街ぐるみデパートにする。両側の南北には、三階あたりにところどころ橋をかけたらよい。大丸や十合や三越の何層倍の一大デパートが実現される。この三大デパートがいずれこまって泣きついてきたら、元町デパートに合併したらよろしい。このようなデパートができれば、世界にはじ

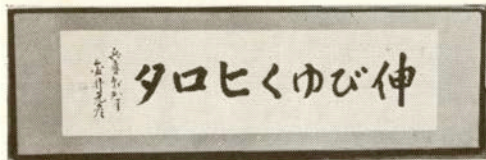
めてである。

もう一つ欲を言えば、五階の屋上を街ぐるみつないで夏季には、一大ビア・ホールにするのである。北側と南側とに、五千人ずつ計一万人のビア・ホールができるであろう。今世界一のビア・ホールは、ドイツ、ミュンヘンの六千人のホーフプロイであるから、この上をこしてニュー・レコードをつくることになる。欧米の億万長者には金の使い道に困っている連中が増えつつある。見たことのないものを見て廻つて、金が使いたくて使いたくて、モジモジしている連中なのである。この連中は神戸へ来ては、京都や奈良へ散つて行つてしまつて、神戸は素通りなのである。

以前に私は朝日新聞に書いたが、神戸は玄関にすぎない。奥座敷は奈良であり、京都である。こんな情ない状態のままであつてよいであらうか。神戸っ子たるもの、上り龍の辰年にちなんで、今年こそ頑張れ。ただしいくら龍は上るものだといつても、物価だけには(さんずい)をつけて(瀧)、下つてもらいたいものである。最初にあまり吹きすぎたので、最後には尻をすぼめて主婦たちの声を伝えておこう。

(神戸大学教授)

'64 あけましておめでとうございます



新装開店おめでとうとほめられる
パリのムードを伝える新装なった**ヒロタ**元町店

- お菓子もうまいが
ゴルフもうまいと
ほめられた**ヒロタ**社長



ホール・イン・ワン。おめでとうございますと
菊水カントリークラブよりホールインワン賞を受けた
ヒロタ 定一社長

昭和38.12.15日 (グランドマンスリー)にて

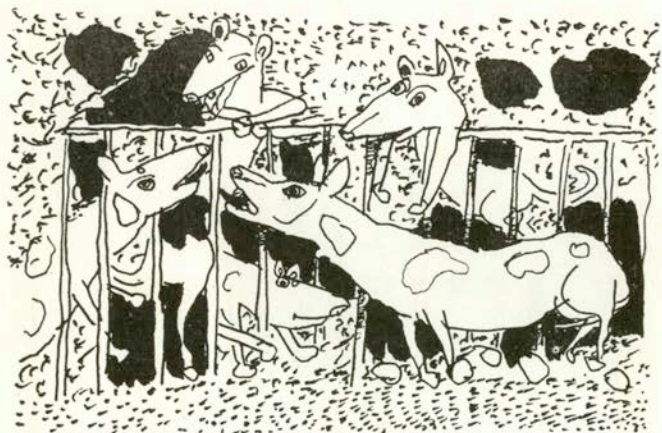
マングラッセは
ヒロタの銘菓です

元町店	三宮店	天王寺本社	梅田新店	ウメダ店	戎橋店	ナンバ店	京都店
元町3	新聞会館	天王寺郵便局	梅田新道	梅田地下センター	戎橋電車通り	ナンバ地下センター	河原町蛸薬師
③2346	②1716	(716)5852	(341)1328	(312)7964	(211)7623	(641)3454	②2777

わが家の庭の住人

白川 渥

え・中西 勝



1100aru, nakanishi.

正月が来て、又一つ年を重ねることになった。私は家族の者の正確な年齢を知らない。私自身の年についても、ともすると、おぼろげである。あの年齢早見表と言うやつで確かめたりする。年のことなど放ったらかしで、いつまでも若く生きたいと思う。

が、わが家の家族の一員であるチル（犬）の年については、頗るはつきりしている。終戦後いまの家に移って来た時貰って来たのだから、もう十七才になるわけだ。ものの本によれば、犬属の定命は普通十二、三才だとある。人生七十の勘定でゆけば、わが家の庭の住人はすでに百才の長寿と言ふことになる。

チルは雑種のメス。貰って来たのは長女で、当時小学生だったが、すでに嫁いで、孫が二人ある。その孫たちが来るたびに、もつれ合って遊んでいるところ、とても百才の老犬とは思えない。

先般この犬のことをちよつと週刊誌に書いたところ、未知の愛犬家からまで、犬の飼育法を訊ねられて、苦笑している。長命なのは、たぶん雑種だからであろう。私は犬の研究書など一行も読んだことはない。若い頃、小馬ほどもあるアイリッシュ・セッターを飼った経験が一度だけある。夏休みには、汽車で四国の郷里まで連れて帰ったりしたのだが、一年そこそこで、犬泥棒に盗られてしまった。そしていまのチルで二度目と言うわけだが、特別の飼育法と言うなら、犬の首にクサリをつなぐような、残酷な飼い方はしないと云うことだけである。つまり、放し飼いだ。彼の四肢のおもむくままに放つたらかしてある。畜犬条例にそむくようだが、犬の自由を尊重してやらないで、何の愛犬家ぞやと言いたい。犬属はもと野に育つたもの。神は犬のために、犬の生を与え給うたもので、人間のためにはない。犬にも「犬権」がある筈だ。ハウスと言う牢獄につないで、犬権をジュウリンしながら、犬を保護してやるためだなどととは、人間共の御都合主義である。犬属にとつては、とんだありがた迷惑であろう。もつとも、こんな飼い方をやったために、前のセッター種の名犬がムザムザ犬泥棒にやられたわけだ。私には犬が好きだ。人間よりも好きだ。獣の瞳の色のあの清澄な深さは、人間の世界ではめつたに出会えるものでない。が、犬属の自由を認めることが条例に反すると言うなら、犬を飼わない方がいい。とそうと心を決めて、十数年目。犬好きの私ながら、いまのチルはやつと二度目。一つは終戦当時の物騒な世相のせいもあった。あえて厄介なメス犬を引きとつたのも、ボンクラのオスで

は、盗難除けには役立たないからであつた。

わが家の屋敷は周囲柵をめぐらしてある。狭いながら、チルにとつては自然動物園である。彼女は其中で育ち成長し、幾度か子を産んだ。時に客たちによつて門の扉が開けつ放しにされることもある。その隙をねらつて、無断外出をはかることもある。一度だけ野犬狩りにひつかかつて、主をあわてさせたこともある。が、「犬権」を認めてやろうと言う主の素志は変らなかつた。そしてクサリは物置で錆びついたまま、わが庭の住人は百才の長寿を重ねて、まだまだカクシヤクたるものである。たぶん、放し飼いのおかけであろう。

ところで、困つたことが一つ。未だに季節ともなれば、どこからともなくオス犬どもがワンサと訪問してくるのだ。察するに、よほど美貌の老婆とみえる。いや、昨今はメス犬が払底しているからであろうかとも、首をかしげてみる。それにしても、百才の老婆のどこにそんな残んの色香が匂つていると言うのであろう。訪問客の中には、表の門をとび越えて侵入する若者もいれば、裏門の格子を一夜がかりで喰ひ破つて熱意を示すさまざまな奴もいる。しかも、何のマジナイか、来る奴も来る奴も、主の丹精の庭苔の上に用を足してゆく。世はようやく泰平ムード。チルが極楽往生をとげたら、少々ボンクラでも、今度はオス犬にせねばと思つている。

(作家)